

## 「国民の期待と願いにこたえ、旧来の自民・公明政治からの転換を！」

「近所のみなさん、日本共産党です。」

総選挙後の本格的な政治論戦、国民の暮らしがかかった、臨時国会が始まりました。

日本共産党は、新しい政権が、国民のみなさんの期待や願いにこたえるように、「よいことには協力、悪いことには反対、問題点はただす」・「建設的野党」として、政治を前に進める立場で、全力を尽くします。

みなさん。

自民・公明の政治によつて進んだ「人間らしい雇用の破壊」・「人間使い捨て」をどうただすのかは、転換が求められる中心問題ではないでしょうか。

たとえば、トヨタは、「エコカー減税」によつて需要が増え、増産するにあたって、またしても、四ヶ月から六ヶ月の期間工を募集し始めました。横暴勝手そのものです。

日本共産党の志位和夫委員長は、失業者とその家族をホームレスにしない取り組みを、求めました。また、「正社員で働くのが当たり前の社会」をめざして、労働者派遣法の抜本改正を求めました。

鳩山首相は答弁のなかで、「登録型派遣の原則禁止、製造業派遣の原則禁止、違法派遣の場合の直接雇用みなし制度の創設」などの内容に触れながら、来年の通常国会に、労働者派遣法を改正する法案を提出することを、初めて、明らかにしました。

財界の圧力や抵抗が予想されるなか、まともな法改正を実現するために、世論と運動を大いに広げていこうではありませんか。

「近所のみなさん。」

自民・公明の政治が進めた社会保障の切り捨て路線を、拡充路線に転換することは、国民みんなの願いではないでしょうか。

とりわけ、七十五才という年齢によつて、医療を差別する後期高齢者医療制度の廃止は、待たないです。

ところが、この問題に対する鳩山首相の立場は、「年齢で人間を差別する、大変けしからん制度」といいながら、「新制度」への移行まで、廃止を先送りするというものです。

後期高齢者医療制度は、延命させればさせるだけ、「差別への怒り」を広げ、二年ごとの保険料引き上げという、痛みが増すばかりの制度です。実際、厚生労働省は、来年四月には、保険料が全国平均で一〇・四%上がるという試算まで出しています。

民主党と、日本共産党、社民党、国民新党が、昨年五月に共同で提出した、後期高齢者医療制度廃止法案は、制度を直ちに廃止して、老人保険制度にもどすというものでした。

日本共産党は、この立場で、後期高齢者医療制度をただちに廃止することを求めます。その上で、七十五才以上の医療費の無料化、国民健康保険への国庫負担の増額など、改善をこそ進めるべきではないでしょうか。署名運動にご協力をよろしくお願いします。

「近所のみなさん。」

外交では、「アメリカとどう向き合うのか」が、自民・公明政治からの「転換の要(かなめ)」ではないでしょうか。沖縄の米軍普天間基地問題が政治の焦点になっています。

沖縄では、各種の世論調査で、名護市辺野古への移設と新基地建設は反対だというのが、圧倒的です。総選挙では、新基地推進派の候補者はひとりも当選しませんでした。

ところが、鳩山首相は、「沖縄の思いをしっかりと受けとめる」「日米間で真剣に取り組む」と言いながら、「在日米軍の抑止力」が必要だとか、「過去の日米合意もある」、「最終的には私自身が決める」と述べるにとどまりました。

「危険きわまりない普天間基地の即時閉鎖、県内移設・新基地建設は許さないと」という県民の思いをしっかりと受けとめ、本腰を入れた対米交渉を行うよう、強く要求する、国民的な世論と運動を起こすつてはなりません。国会と国民をつなぐ「しんぶん赤旗」を是非ご購読ください。